

科目名	国際法入門				
英語科目		ナンバリング	GHpn1202		
開講期	春／秋	開講学部等	共通教育科目	配当年次	1年次
教員名	岩本 誠吾, 戸田 五郎		単位数	2単位	

授業概要／Course outline

本講義の目的は、現代国際社会で発生している諸問題を理解し、今後のあるべき国際社会像を考察するために、国際法的側面からの分析方法を修得することである。それには、まず、国際社会が、個々人を構成員として国家権力により秩序や権利が保持されている国内社会とは異なり、主権国家が並存して国家の上に立つ権力や権威は存在せず、基本的に国家が自己の利益（国益）を追求する場であるということを理解しなければならない。本講義ではその上で、現代国際社会には個々の国家の利益だけでなく、それを越えた社会の共通利益が存在するという考えが徐々に浸透し、国際法の構造に転換をもたらしていることを、現代国際法の種々の論点を検討する中で明らかにしていきたい。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

授業内容・授業計画／Course description・plan

講義は以下の順序で進める予定である。

第1回：国の数はいくつ？（指定教科書9～19頁）

国際社会とは何か、それを形成する国家とは何かを考える

第2回：国際社会にルールはあるの？（20～29頁）

国際社会のルールとしての国際法の性質、国際法の存在形態を明らかにする

第3回：国際法はどこまで及ぶの？（30～41頁）

人類が暮らす地球の表面及び宇宙空間の国際法上の位置づけを考える

第4回：どこまで日本？（42～53頁）

日本が抱える領土問題を国際法の角度から検討する

第5回：大きな国はやりたい放題？（54～63頁）

国際社会において国家が有する主権の意味を考える

第6回：国家を表すのはだれ・なに？（64～74頁）

外国に派遣される国家機関は国際法上どのような地位を有するのかについて考える

第7回：国籍ってなに？（75～85頁）

国籍とは何か、私たちが国籍を有することはどのような意味をもっているのかを考える

第8回：人間らしく生きるって？（86～96頁）

本来国内問題であった人権保障に、なぜ国際法が関与するようになったのかを考える

第9回：輸入品って高い？（97～109頁）

貿易のルールとしての国際法の現状と課題を考える

第10回：地球は病気のなの？（110～119頁）

地球環境問題に対する国際法のアプローチを概説する

第11回：国連は世界の政府？（120～130頁）

国連によって代表される国際機構の存在意義を考える

第12回：どうしたら平和に暮らせるの？（131～141頁）

戦争を違法と位置づけている現代国際法の下における、戦争防止への様々なアプローチを検討する

第13回：戦争にもルールはあるの？（142～151頁）

無差別戦争観の下で確立してきた戦争を行う際のルール（国際人道法）の現在における意義を考える

第14回：こんなところに国際法？（152～160頁）

私たちの日常生活に国際法がどのようにかかわっているのかを考える

第15回 日本はいつ国際法と出会ったの？（161～171頁）

幕末の開国による国際社会への参入に伴って、日本が国際法にどのように向き合ったのかを考える

準備学習等（事前・事後学習）／Preparation and assignments

春学期（戸田五郎担当）：

事前学習：毎回、予習課題（教科書の次回範囲を読んで解答する問題）を出すので、設定された期限までに提出すること。所要時間約120分。

事後学習：毎回、復習課題（授業を聞いたことを前提として解答する問題）を出すので、設定された期限までに提

出すること。所要時間約120分。

秋学期（岩本誠吾担当）：

事前学習：毎回、予習課題（教科書の次回範囲を読んで解答する問題）を出すので、設定された期限までに提出すること。所要時間約120分。

事後学習：毎回、授業内容や感想をまとめたレポート（800字程度、7点満点で評価）を提出すること。所要時間約120分。

授業の到達目標/Expected outcome

受講者は、国際社会の動きを国際法的側面から理解する能力を獲得することができる。

身につく資質・能力/Competencies to be attained

- ・思考力
- ・幅広い教養

履修上の注意/Special notes, cautions

日頃から、絶えず変化している国際状況を理解するために、新聞、特に国際面を読むよう心掛けること。

評価方法/Evaluation

国際法の基礎知識を獲得し、それを論理的に記述できているかどうかについて、以下の基準で評価する。

春学期（戸田五郎担当）：

課題（100%）

秋学期（岩本誠吾担当）：

授業内容や感想をまとめたレポート15回×7点満点＝105点を100点に換算して評価点とする。

教材/Text and materials

教科書：岩本誠吾・戸田五郎『はてなの国際法』（晃洋書房、2022年）

質問や相談の方法/Instructor contact

担当教員宛電子メール、オフィスアワーを利用のこと。